

迫害の歴史

旧新約聖書、教会 2000 年の歴史を見るとキリスト教は絶えず迫害されていることが分かります。迫害の度に、キリスト者たちはますます信仰を堅く持ち献身し福音が広まったという事実もあります。迫害の時代、苦難の時代にあって真剣にキリストのために生きていた信仰の先輩の姿がキリスト教の迫害の歴史の中にあります。

義のために

義のために迫害されること、それはイエス様を信じる信仰のゆえに、みことばに従って正しく生きるがゆえに、ののしられたり、不当の理由でありもしないことで悪く言われたり、罵倒されたりするということです。キリスト者になるということはキリストにおける苦難にもあずかることでもあります。自分の益のためではなくイエス様のために生きる。神の正しさゆえに、キリストのために毎日を真剣に生きている人の姿がそこにあります。キリスト者がみことばに生きる時、迫害を受けることがあります。(Ⅱテモテ 3:12) そしてイエス様の十字架は私たちが義に生きるためでもありました。また迫害の中でも神の義に生きたキリストは生き方において模範を残してくださいました。(Ⅰペテロ 2:19)

御国はその人たちのもの

忘れてはならないのはイエス様の足跡に従う道が、迫害や困難で終わりではないということです。イエス様が十字架の後に、死に勝利されて天の御国に行かれたように、私たちの歩みも最後には必ず栄光の天の御国へと続く道が約束されています。これが聖書の示す希望です。私たちが天の御国を信じるということは、私たちが今を生きる上で大切なことです。迫害時代のキリスト者は、地上の苦しみではなく御国の希望をいつも信じて歩んでいました。自分が天の御国の民であるということをも自覚していました。私たちは今どんなことで悩み、何を苦しんでいるのか。自分のためのものか。それともイエス様のために苦しんでいるのか。イエス様は、「義のために迫害されている者は幸いだ。」と言われました。「わたしのために本気で生きている御国の民はなんて幸いなんだ。」と言われました。もっとイエス様としっかり結び合わされたいと思います。福音に生きることでたとえ苦しみを味わうことがあってもいい。馬鹿にされたっていい、ののしられたっていい。大胆にキリストのために生きる者とされたい。キリストのために苦しむ者とされ、互いに励まし合っていきたいと思えます。イエス様は私たちにこの地上を生き抜く希望と耐えうる力、慰めを与えてくださいます。今すでに天の御国が与えられていることに感謝し、またやがて天の御国に入れることを待ち望んでキリストのために生きる幸いな道を歩ませていただきたい。私たちはイエス様が「なんて幸いな人なんだ！」と言われる天の御国の民としての生き方を先延ばしにするのではなく、この地上にあって、8 つの幸いな生き方が私たち自身の生き方となるように祈っていきたくて願います。そしてこの地に建てられた私たち教会は、いつもどんな時もキリストを掲げる教会とならせていただきますように。